

共にしあわせ産みだす党 日本共産党

市議団ニュース

第 1777 号 2015 年 12 月 6 日

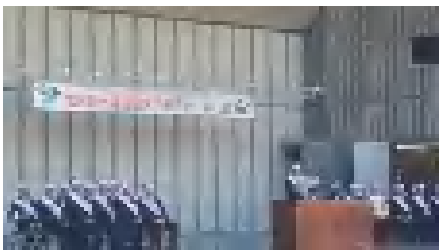
日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 23-6023

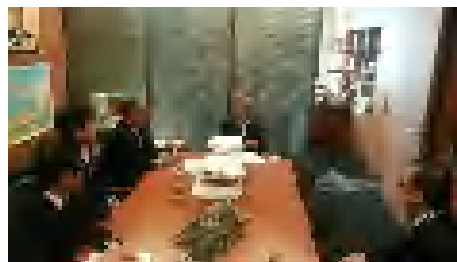
東京で領土問題を声高く訴える 北方領土返還要求中央アピール行進



2015 年 12 月 1 日、返還要求運動の関係者ら約 500 人が領土問題の早期解決を訴え、日比谷公園での出発式のあと、東京都心部をアピール行進しました。北方領土隣接地域振興対策根室管内市町村連絡協議会(長谷川会長)の主催で、今年は第 10 回目の開催となります。



「北方領土」問題に関して、 国会議員への要請活動を実施 根室市議会 北方領土対策特別委員会



2015 年 11 月 30 日、中央アピールの前日に、根室市議会北方領土対策特別委員会(永洞委員長)は、北方領土問題の早期解決等と返還要求運動の推進について、衆参の沖北委員と北海道選出の議員に要請活動を実施しました。

その前に 10 月 13 日に開催された根室市議会の 11 月緊急議会では、「北方領土問題の早期解決等を求める決議」を全会一致で決議し、それを全ての国会議員に送付しました。

30 日にはあらためて決議文とともに領土返還要求運動啓発のバッチを手渡ししながら、翌日の「北方領土返還要求アピール行進」への参加も含め要請しました。

領土問題という国の根幹に関わる課題でありながら、戦後 70 年を経過する中で、現在の国民の関心は高くなく、そればかりか国会議員ですら、十分な認識がなされているとは言えない状況です。

今回の要請行動でも、日本共産党では紙智子参議院議員・畠山和也衆議院議員を含め、与野党を問わず熱心に対応された国会議員が多くいる一方、秘書さんから「軽くあしらわれたな」と印象うける場面も、やはりそれなりにあったことは事実です。

今年の 12 月 1 日の中央アピールでは、日比谷公園野外音楽堂の出発式に来賓として出席した国会議員は、例年より多い印象でした。もしかすると要請活動の効果も一部あったかもしれません。

今後とも領土問題に強い関心をもって取り組む国会議員を増やしていけるよう、地元の議会として、引き続き取り組んでいく必要性を感じました。

TPPは決まっていない、これからが大事
2015.11.9 参議院議員 紙 智子

道南の日本海側に面している海沿いの町、せたな町は、人口 9000 人ほどです。

大成町、北松山町と瀬棚町が合併し 10 年間に 2 割の人口減となりました。農業と漁業を基幹産業とし、食料もエネルギーも地産地消、食料自給率は 94.0%です。議会はこれまで、9 回にわたって TPP 反対の意見書を可決してきました。にもかかわらず、今回の「大筋合意」。「このまま黙って指をくわえていいののか」と、議会が呼びかけ今回のシンポジウムが企画されました。

各議員がそれぞれ参加を呼びかけ、当日は近隣の今金町、森町、八雲町、上の国町、遠くは由仁町からも、議員や役所の職員、農協職員、住民ら約 300 人が参加しました。「TPPの大筋合意をどう見るのか」「国会決議との整合性」「一次産業に支えられている自治体が、TPPにどう向き合えばいいのか」等のテーマで、自民党、民主党、日本共産党、新党大地の 4 党の国会議員と道議会議員が参加し議論しました。

私は「政府は決まったかのように宣伝しているが、まだ、決まっていないし、これからが大事だ」と訴えました。会場からは「影響を明らかにせよ」と声が出されました。「もう、やられてしまうのかな、と暗い気持ちだったが、これからだわかって元気が出た。しっかり声をあげ続けたい」との感想が出されました。

宮城県議選に続いて、安倍政権の暴走政治ノーマーを突きつける国民の戦いは、こうした北の町からも起こっていると力強く感じました。